

めざす児童生徒像

学びに主体的 (一生懸命) に関わる児童

※児童生徒結果-教員結果-保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
(学校で設定)	学校重点項目	①②の平均を90%以上にする。	① 学びに主体的に関わる児童の育成に努めている。	100 A:18 B:82	92 A:64 B:28	99 A:55 B:44		①「一生懸命」という分かりやすい教育キーワードを設定したことで児童が学びに主体的な姿になっている。 ②クマ・熱中症・地震等、様々な危機管理を学校全体で共有・実践することができている。	【担当】教頭・教務②教頭・保健主事【改善策】①「一生懸命」な姿を具体的に示し明確にする。授業参観等で児童の一生懸命な姿を保護者に見てもらう。 ②学校施設、校区の安全点検、気象情報のチェック等を丁寧に行い、改善点があればすぐに対処する。教職員・地域との情報共有に努める。 【いつ】夏休みに①②共に見直し2学期から実践する。
			② 危機管理意識を高め、安心安全な学校づくりに努めている。	100 A:82 B:18					
			集計						

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
重点項目	業務の改善 働き方や コミュニケーション	③の値を90%以上にする。	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	82 A:27 B:55				①1学期、1カ月、2週間先の見直しをもって業務を進めることがある程度できている。課外等による学級担任のサポートができていない。 ②教職員の得意を活かした若プロや校内研修ができた。授業づくり・生徒指導において教職員間のコミュニケーションがよく取れた。 ③1のつづきの特別時間割により、教材研究等の時間の確保ができていない。	【担当】教頭・教務【改善策】①2週間、1カ月、2学期の見直しをもって業務を進める。SSSに任せられるものは任す。②教職員の特性を生かした若プロや校内研修、県内外の学校視察等を行いお互いに切磋琢磨する。③1のつづきの特別日課を継続して行う。 【いつ】夏休みに、月割を通して2学期全体の見直しをもち、校内研修計画を立てる。
			② 自己の成長を感じられる働きがいがある学校づくりに取り組んでいる。	91 A:27 B:64					
			③ 組織として教材研究・研修の時間を確保している。	100 A:36 B:64					

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
学校研究	③の値が90%以上にする。	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元(授業)構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	100 A:45 B:55				①授業づくりの柱であるNTT(ねらい、展開、適用題)を全教職員で共通理解している。また、授業づくりシートを活用することで、個別最適な学びと協働的な学びのバランスを考えている。 ②授業研究会では、小グループを編成し、全員が発言できるようにしている。具体的な子どもの姿を挙げながら、一人一人が主体的に研究主題に迫る授業づくりを考えている。 ③毎月1回研究授業を行い、成果と課題を全教職員で共通理解して、今後の重点課題を設定している。	【担当】研究主任、教務主任 GIGA推進リーダー、担任 【改善策】①②③ともに、1学期の成果を全体で共有した上で、取組を継続していく。 【いつ】夏季休業中に研修会を開く。	
		② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	100 A:64 B:36						
		③ 授業改善への共通した取り組みを確実に実践している。	100 A:45 B:55						
集計									

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
指導力の向上	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	②の児童生徒の割合が中間…70%以上 年度末…80%以上	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	91 A:27 B:64	92 A:58 B:34			①本時の達成目標を明確にした授業づくりに取り組むことで、ゴールを見通し、主体的に課題解決に取り組む児童が増えている。 ②授業構想シートの活用により、協働的な学びを意図的に仕組むことで、児童が必然性をもって関わり、考えを深めたり広めたりできている。 ③話すことが好きな児童が多く、自分なりに工夫していると感じているようである。 ④教師と児童の意識差が大きい。児童の自己評価は高いが、客観的にはまだ改善の余地がある。聴く指導を、各学級、全校で継続していく。 ⑤授業の振り返りでは、できるようになったことや考えの変容など、自己の成長に目を向けさせている。 ⑥積極的に学習用端末を使用して、効果的な活用場面を模索するとともに、いろいろな機能に慣れ親しんでいる。	【担当】研究主任、GIGA推進リーダー、担任 【改善策】・継続して取り組んでいく。 ・目標指標を達成することができた。継続して取り組んでいく。 ・教師と児童の意識差が大きい。話す際の工夫を具体化し、学校全体で共通理解する。 ・月に1回取り組んでいる「話し方名人聞き方名人」の取組を継続する。また、全校集会等で、全校児童を対象に指導していく。 ・ノート展示、振り返りの交流、振り返りの書き方に関する掲示物等を通して、振り返り(メタ認知)の価値に気付かせることともに、自分の成長や課題を適切に表現する力を高める。 ・ICT活用研修を通して、各自の実践を共有し、各学年の実態に応じた取組を進める。 【いつ】職員会議で共通理解を図り、2学期から実施していく。
			② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている。	91 A:18 B:73	89 A:56 B:33				
			③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	73 A:0 B:73	91 A:49 B:42				
			④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えを伝えていく。	73 A:18 B:55	93 A:61 B:32				
			⑤ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	82 A:0 B:82	91 A:57 B:34				
			⑥ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	82 A:27 B:55	95 A:79 B:16				
			⑦ 個別最適な学びと協働的な学びのバランスを目指した授業づくりに取り組んでいる。	91 A:45 B:45					
集計									

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
学力の向上	カリキュラム・マネジメント	①②③④⑤の平均が中間…85%以上 年度末…90%以上	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	100 A:36 B:64				①全学年において教科横断的な視点で組み立てたカリキュラムマップを使用し、指導計画を作成している。 ②一連のPDCAサイクルを確立しているが、さらによりよいカリキュラムを考え作成していく必要がある。 ③学力調査の分析結果をもとに児童の実態(よさや改善点)を把握して、学校全体や学年、個人に応じた授業作り日々取り組んでいる。 ④今年度は、小中連携協議会でのテーマがはつきりとし、統一した目標や課題作りをすることができた。 ⑤学力調査の分析結果をもとに担任が取り組むことができている。	【担当】教務主任 研究主任 担任 【改善策】・今後も教科横断型のカリキュラムマップを使用して、教科横断しながら効率的に授業を組み立てていく。 ・地域の実態を捉え、地域のよさや地域人材を活用しながら、学校に合わせた教育課程を考え、カリキュラムマップに加筆修正をしていく。 ・7月に開示される学力調査の結果をふまえ、共通実践を行う。 ・小中連携協議会で出た課題を自校に戻って、南部地区として課題解決のために取り組むことができるようにする。 ・学力調査の分析を生かした具体的な単元や領域を再度確認し、継続的に帯タイムで取り組む。 【夏季休業中に提案し、2学期より実践する】
			② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。	91 A:9 B:82					
			③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	100 A:36 B:64					
			④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。(小中連携)	100 A:0 B:100					
			⑤ 学力調査の分析を生かして帯タイム学習の充実を図る。	91 A:36 B:55					
集計									

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
家庭学習	①「家で計画を立てて勉強している」②「家庭学習で学習用端末を活用する」80%以上にする。	① 家庭学習の取組として、学習方法や課題の課し方等を校内で共通理解を図っている。	100 A:18 B:82	82 A:47 B:35		-18	①家庭学習のめあてや目標時間、内容を各学年に合わせて課題を提出している。家庭学習パワーアップ課題では8割弱程度の児童が目標を達成できた。様々な事情から1割強の児童の達成は難しいのが現状である。 ②学習用端末を活用した家庭学習を出すようにしている。 ③児童は家庭学習で力がついていると前向きに取り組んでいる。	【担当】教務主任 研究主任 担任 【改善策】・家庭学習の取組方について、2学期再度確認し、集団と個人に応じた課題を出していく。 ・学習用端末を活用した課題の工夫と定期的な持ち帰りを計画する。 ・学んだことの定着を目指して、家庭学習を工夫していく。 【夏季休業中に提案し、2学期より実践する】	
		② 学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。	91 A:9 B:82	88 A:36 B:52		-3			
		③ 家庭学習に取り組むことで学んだことが定着している。	82 A:0 B:82	92 A:61 B:31	89 A:37 B:52				
集計									

令和6年度小松市立粟津小学校 学校評価2

	目標・具体的取り組み	取組の状況（中間・8月提出）	取組の成果と課題（年度末・3月提出）
生徒指導	<p>児童が「みんなで」活動する学校づくりを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童へのアンケート結果を元に担任と児童で話し合い、各学年で年間の重点目標を決定する。 7月、12月の意識調査をもとに取組を改善し、成果を共有してより効果的・効率的な取組とする。 南部中学校校下で連携し、児童の視点で魅力的な学校づくりに向けて取組を考え、共に実践していく。 	<p>○7月の「あわづっこ あんしん アンケート」の結果では、「学校が楽しい」で「あてはまる/どちらかといえばあてはまる」を選んだ児童が91%、「みんなで何かをするのが楽しい」で「あてはまる/どちらかといえばあてはまる」を選んだ児童が95%だった。今年度も昨年度同様、児童集会で6年生と運営委員会を主体とした「お楽しみゲーム」を取り入れたことで、「楽しい学校・みんなで活動する学校づくり」につながっていると感じた。</p> <p>△昨年度に比べると、「学校が楽しい」と感じている児童が減ってきているので、より有効的な取組や担任と児童との話し合いを進めていきたい。</p> <p>△南部中学校校下での連携に関して、今年度は「なんぶっ子3カ条」のうち、「自ら進んで」を重点に進めていく。共通実践に関して、今後さらに連携を取り内容を決めていきたい。</p>	
特別支援教育	<p>児童一人一人の教育的ニーズに応じた教育を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 気づき票を通し、特別な配慮を要する児童の課題を把握し、適切な支援を行う。 組織的な特別支援教育を推進するため、コーディネーターを中心に現状を把握、評価した上で、児童の支援策を共有し、継続した支援が行えるよう児童理解の会や支援会議を通して校内支援体制の充実を図る。 	<p>○全員が安心して学校生活を送るために、必要なクラスに支援員を配置するようにした。</p> <p>○月に1回、児童理解の会を行い、全職員で児童の実態や変化について共有することができた。</p> <p>○必要に応じて、校内支援会議を開き対応した。特別支援学校より専門相談員を招聘し、授業を参観してもらったり保護者との懇談を行ったりすることで様々な視点から支援を考えることや家庭の理解・協力を得ることができた。</p> <p>△個別に支援を必要とする児童に対し人員が少なく、支援が不十分といえる時間があった。</p>	
道徳教育	<p>日常生活で生きて働く道徳科の授業づくりを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 深い学びにつながる授業展開を目指し教材研究の場もつ。 振り返りの道徳ノートを活用し、自身の変容を実感できるように関わる。 行事と道徳の学びのつながりの意識を意図的にもち、児童が学びを実感できる評価をする。 	<p>○低学年・中学年・高学年に分かれる教材研究の場を設けた。共通の教材等もあり、1学期の授業準備に生かすことができた。</p> <p>○全学年で振り返りの道徳ノートを活用している。教師が価値観を押し付けるのではなく、児童の振り返りに寄り添うコメントを継続していきたい。</p> <p>○今後も道徳の授業と実生活、行事を結びつける言葉かけを継続していきたい。</p>	
保健教育	<p>健康な生活づくりを推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 保健指導を計画的に実施することで、児童が自分の心や体について理解できるようにする。 各学期に1度の「にこにこ生活プロジェクト」の実施を通して、メディアとの関わり方（自分を大事にするメディアコントロール）を考え、よりよい生活習慣を心がけられるようにする。 	<p>○4月健康診断時に「正しい健康診断の受け方と体の雑学」、6月体重測定時に「動物の歯と人間の歯」についてのミニ保健指導を実施。6～7月に各学級にて歯と口の健康指導を実施した。歯と口の健康指導のふりかえりでは、「歯について知らないことが知れた。もっと大事にしようと思った。」という声が多く聞かれた。2学期は、9月と11月にミニ保健指導とむし菌の多い児童、歯肉炎の児童に個人指導を実施する予定である。</p> <p>○第1回ニコニコ生活プロジェクトでは、達成率が85.7%となり、多くの児童がメディアコントロールを心がけ、よりよい生活をしようとする姿が見られた。</p> <p>△ニコニコ生活プロジェクトの提出率は85.4%(最も低い学年は69.6%)だった。今回、提出できなかった児童には第2回以降、個別に声掛けをしていきたい。</p>	

学校関係者評価	<p>【前期】</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童集会では、6年生が中心となって下級生を楽しませる企画を行い、司会進行や運営など主体的に頑張っている姿がとてもよい。グループに入りにくい児童への対応もできていた。 道徳の授業では、地域の人材などゲストティーチャーとして招き、児童に本物の体験をさせてほしい。 道徳教育等の充実を図り、児童の自己肯定感を高め、メンタルを強くしてほしい。 よりよい生活習慣の育成として「生活チェックシート」に「朝ごはん」を追加してほしい。
---------	--